



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2018.2

No.407

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 大宮氷川神社 カラスの罅入り

浅見 徹(さいたま市)

昨年暮れ(2017/12/16(土))に、調査部主催で「大宮氷川神社 カラスの罅入り観察会」が実施されました。罅=“ぬぐら”と読みます。鳥が寝に帰る所なのですが、県内には、冬季、何箇所かカラスが大集団で眠りにつく場所があります。その一つが、大宮氷川神社の鎮守の森(以下、氷川の杜)です。ここでのカラスの罅入り調査は、日本野鳥の会埼玉の有志および協力者により過去3回行われました。今回の調査結果とこれまでとの比較などについてご紹介します。

## 1. 調査方法

過去の3回と同様に、最終罅(氷川の杜)を囲む位置に観察ポイント◆P1~P4(図1参照)を設けて、罅に入るカラスの数(A)と出ていくカラスの数(B)をそれぞれカウントして、(A-B)を罅入り数としました。カラスの種類は区別せず、表1脚注の特記事項以外は全て「カラス」としてカウントしました。

## 2. 調査結果

表1と図2に今回の調査結果を示します。表中の数字は、カウント開始時刻(15時)から各記録時刻までの累積数です。時間帯毎の罅入り数については、図2を見てください。ここに罅入りするカラスは、ハシブトガラスとハシボソガラスが大半を占めますが、表1脚注に示したように、ミヤマガラスとコクマルガラスの罅入りも確認できました。調査当日はカウントに忙しく、写真を撮る余裕がなかったのですが、写真1は12/13(水)の下見で撮った写真です。この日は、観察地点P1対岸の高木が「罅入り前集合地」となっていて、ミヤマガラスの群れの中にコクマルガラスが混じっていました。

## 3. 過去のデータとの比較など

過去3回の調査結果を列記すると、2013/12/28(土):3,401羽、2014/01/27(月):4,182羽、2014/12/28(日):4,320羽と増加傾向を示していました。そして、今回さらに増えて4,827羽がカウントされました。ミヤマガラスは、1回目(2013/12/28)から観察されていましたが、コクマルガラスは今まで声だけでの確認でした。今回、初めて姿を確認できました。

各地で嫌われ者のハシブトガラスとハシボソガラスですが、ここに罅をとるカラスの大部分がこの2種で占められています。ハシブトガラスとハシボソガラスの比は、私の主観では8:2位でしょうか。昼間、公園内や氷川参道にいるカラスを見ての印象です。

生ごみを食い散らかし、繁殖期には人を威嚇するなど「カラス問題」を引き起こして周辺住民から反感を買っているのは、もっぱらハシブトガラスのようです。

埼玉県みどり自然課が2003/2004年冬に行った調査では、冬罅と確認されたのは八高線以東の平野、丘陵地帯で28箇所、合計約35,000羽にも上りました。この時の氷川神社(大宮公園)での調査結果は約2,500羽でした。今回の調査結果では、この約2倍に増えています。ただ、これは氷川神社(大宮公園)だけに言えることで、他の地域でも調査しないと、本当のところは分かりません。実態を知り、対策を考えるためには、各地でこの種の調査を実施する必要があるようです。

## 4. おわりに

氷川神社・大宮公園の周辺には、縄文時代からの遺跡が数多くあります。そして人が入り込む、そのずっと以前から、カラスはこの地で暮らしてきたことでしょう。カラスは、神話で神様の使いとされたり、童謡で子供(雛)思いの愛らしい存在として歌われたりと、太古の昔からつい最近まで人と仲良く暮らしてきたように思います。でも今は、「カラス問題」がクローズアップされ、人とカラスが敵対関係になってしまっています。増えすぎてしまったことが原因かもしれませんが、その原因を作ったのは、人間ではないでしょうか。

カラス退治なんて考えずに、なんとかカラスと人が共存できる世界にしたいものです。人が食べ物を粗末にせず、生ごみを減らせば、

カラスも自然に減るでしょう。

「カラス問題」？ いえ、それは「人間問題」です。

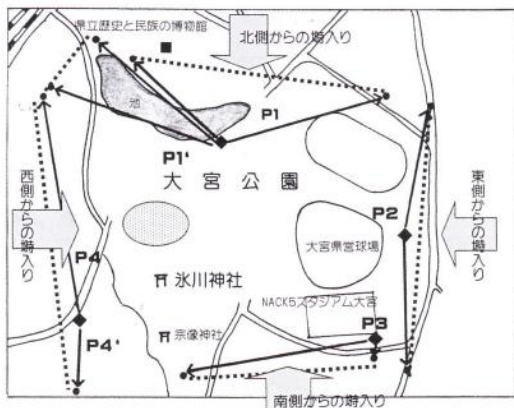


図1. 調査位置図

● : 最終時(水川の杜), ◆ P1~P4 : 観察地点  
 → : 観察方向, ●.....● : 出入カウントの境界



写真1. ミヤマガラスの群れに混じる  
 コクマルガラス (2017/12/13 下見で)

表1. 罅入り数 (A-B) 集計表 (2017/12/16 15:00~17:00)

記録時刻	P 1	P 2	P 3	P 4	合計
15:00~15:15	93	59	13	-22	143
15:30	105	132	21	-11	247
15:45	179	211	49	-13	426
16:00	259	418	101	66	844
16:15	428	688	185	248	1,549
16:30	646	1,116	385	635	2,782
16:45	882	1,547	562	1,437	4,428
17:00	1,048	1,578	576	1,625	4,827

特記事項(1) P1/16:45 ボート池の対岸の木に止まるミヤマガラス 98羽。17時直前に一斉に罅入り。

(2) P2/16:15 高圧線にコクマルガラス 7羽以上を含むミヤマガラスの群れ。長いこと留まったのち、一気に罅入り。

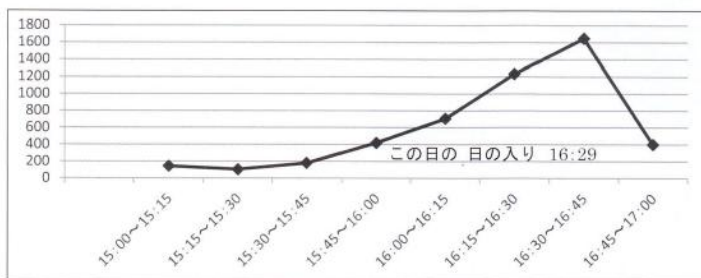


図2. 時間帯毎の罅入り数 (P1~P4 合計値) 縦軸単位: 羽

## 「バードアイランド三宅島」へ探鳥旅 大井智弘(さいたま市)

2017年12月25日の夜、竹芝桟橋を定期船で出航し26日朝5時に東京から南へ約180kmに位置する三宅島に到着しました。天候はあいにくの寒波到来で28日まで強い西風に悩まされました。

到着後一息ついて探鳥に出発し最初に出会えたのは、三宅島と御蔵島、八丈島だけに留鳥として生息しているオーストンヤマガラでした(右上写真)。本州の亜種ヤマガラより羽色が濃く体が大きいのが特徴です。

三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館のレンジャーの方の話によると、2000年の噴火(注1)の際、溶岩流でオーストンヤマガラが好むスダジイなどの照葉樹林の森が立ち枯れた土地になってしまいました。噴火から17年が経過して植生(注2)が回復しつつあっても、オーストンヤマガラの個体数は減少傾向にあるとのことでした。

さて、日本固有種のアカコッコですが、探鳥地の情報が少ないためか1羽も観察できない。三宅島の総人口2,560人(注3)に対して、アカコッコの推定個体数は総人口の約3倍の7,777羽(注4)も生息しているのに出会えない。地元の方もアカコッコは冬になると個体数が減少するが、島外に大移動することは考えにくく、冬場はどこへ行ってしまふのか分からないとのことでした。観察できなかった理由は、観察に適した繁殖期の4月から7月ではなく、12月に三宅島を訪れたためだったようです。

アカコッコを観察できず残念でしたが、島



内の大路池では池に何度もダイビングするミサゴ、羽を広げたウミウ、伊豆岬では波打ち際のカツオドリ、イソヒヨドリ(左下写真)を観察できました。

また、本州の亜種メジロと比べると、嘴と翼が長く体が大きいシチトウメジロも間近で観察できました。

宿泊した坪田地区の新鼻荘では、宿主から毎年のように探鳥に来ていた日本野鳥の会埼玉の面々のお名前を聞くことができました。

三宅島ならではの野鳥との出会いを求めて、また訪れたいと思える「バードアイランド三宅島」への旅でした。

○ 12月26日～28日、三宅島で観察できた野鳥(帰りの船内で夫婦で鳥合わせをしました)25種

オーストンヤマガラ、シジュウカラ、シチトウメジロ、ヒヨドリ、ミヤケコゲラ、トビ、ミサゴ、ノスリ、ハシブトガラス、スズメ、モスケミソサザイ、キジバト、ホオジロ、ウグイス、ツグミ、タヒバリ、ジョウビタキ、ルリビタキ、オオバン、カワセミ、ハジロカイツブリ、ウミウ、カワラヒワ、カツオドリ、イソヒヨドリ



注1、2 三宅島の噴火や植生による野鳥への影響については、『野鳥』誌2015年7月号(No.796)特集「シリーズ島と鳥③三宅島」参照

注3 三宅村役場ホームページ 行政情報 住民基本台帳による人口統計データより

注4 三宅島自然ふれあいセンター研究報告 平成28年度事業報告Vol.20「三宅島のアカコッコの総個体数の推定2016」より



## 野鳥情報

**秩父市影森 (5339-7075)** ◇3月19日、ハイタカ (下写真)。影森地区のブドウ畑で小鳥を捕まえていた (宮崎忠邦)。



**さいたま市見沼区膝子** ◇9月18日、畔にキセキレイ1羽、移動中と思われる。10月21日、道路沿いの電線にとまるミヤマガラス約10羽を車中より確認。今季初認。10月27日、電線から次々に田んぼに飛んでゆくミヤマガラス約30羽 (鈴木紀雄)。

**春日部市倉常** ◇9月18日、休耕田でコチドリ4羽、ムナグロ16羽。9月23日、コチドリ5羽、トウネン4羽、ムナグロ16羽、チヨウゲンボウ♀1羽 (鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇9月18日、エゾビタキ3羽、シジュウカラ、エナガ、イソシギ、クサシギ、ダイサギ、コサギなど。9月24日、林内で飛び回る小鳥の尾羽だけが初め見えた際はヒヨドリだと思ったが、よく観察したらサンコウチョウだった。短い尾で、アイリングも目立たない2羽が「ギョッ」ないしは「キュッ」と小さく鳴いて林内を飛び回っていた。他にエゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ♀、アカゲラ、ムシクイ類。上空にサシバ2羽。10月26日夕刻、池でカルガモに混じってコガモ、ハシビロガモ各1羽。カケス初認。アオジがあちこちで鳴いていた (鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区高曽根** ◇9月24日、耕起された一枚の田んぼにケリ12羽が集まっていた。ハシボソガラスが電柱にとまるオオタカ若鳥に執拗にモビング (鈴木紀雄)。

**川越市伊佐沼** ◇9月25日、アオアシシギ1羽、ハマシギ1羽、オジロトウネン1羽、セイタカシギ成鳥2羽、若鳥3羽、コチドリ5羽、ハシビロガモ3羽、コガモ50羽の中にシマアジ♀1羽。10月1日、コチドリ3羽、イソシギ1羽、オジロトウネン3羽、ヨーロッパトウネン1羽 (鈴木紀雄)。

**飯能市武蔵台** ◇9月30日、好天なのでタカが渡らないかと高台のグラウンドに行ってみたが、午前11時30分にサシバ1羽が南から来て上空を旋回したのみ。残念!! (鈴木紀雄)。

**蓮田市笹山** ◇9月30日、ノスリ1羽。刈り取られた稲の間にタシギ2羽 (鈴木紀雄)。

**さいたま市の鴨川** ◇10月4日、島根橋付近～堀の内橋でカルガモ100羽±、コガモ36羽±、マガモ、オナガガモ、カイツブリ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、イソシギ、カワセミ、ノスリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズなど。草が刈られた後の閑沼でタヌキ2頭が餌探し、夕方、学校橋近くの畑の上をオオタカ成鳥1羽が一直線に飛んで、民家の庭のケヤキの中に身をひそめた。西方の鉄塔付近にムクドリ数百羽 (大塚純子)。

**さいたま市中央区八王子5丁目** ◇10月9日朝、かやのき団地内の公園でシジュウカラ5羽±、エナガ5羽±、コゲラ2羽、メジロの混群。11月2日、かやのき団地8号棟の庭でヤマガラ1羽。11月8日、白神川でキセキレイ1羽、ハクセキレイ2羽 (大塚純子)。

**川越市～ふじみ野市の新河岸川** ◇10月9日、マガモ、コガモ、ヒドリガモ (プリングマン・ウィリアム)。

**川越市寺尾調整池** ◇10月11日朝、カイツブリの親子 (ヒナ1羽)。親が餌をとったが、ヒナには渡さなかった (プリングマン・ウィリアム)。

**熊谷市富士見中学校** ◇10月18日午前10時30分頃、上空でノスリ3羽帆翔。久しぶりに晴れたので、寮のベランダから外を見ていた。ハシボソガラスが急に騒ぎだしたの

で、辺り一面を探すと案の定、猛禽の出現だった(大畑祐二)。

**蓮田市西城沼公園** ◇10月23日、罫入りのカラス300羽土が電線に並んだ。その中にミヤマガラスが6羽いた。今季ここでの初認。10月24日午前9時50分、屋敷林からツミと思われる小型のタカが飛び出し、上空で大きく輪を描きだした。するとハイタカらしい小型のタカが別の屋敷林から飛び出して、ツミに近寄り、何度も絡み合いながら上昇を続け、空高く消えた。10時15分、屋敷林から突き出た葉のない一本杉に小型のタカがとまっていた。ツミ♀若鳥(下写真)のようだ。10月28日、ジョウビタキ♂、ここで今季初認。11月2日、竹藪の林床でアオジ、ここで今冬の初認(長嶋宏之)。



**熊谷市中央3丁目** ◇10月24日午前10時20分頃、ジョウビタキ♀、今季初認(大畑祐二)。

**所沢市狭山湖** ◇10月24日、午後1時頃、コシジロウミツバメ1羽が北の方向から飛来し着水。台風21号に巻き込まれて迷い込んだようだ。続いて、ハジロクロハラアジサシ1羽が湖上を旋回。渡り途中のノゴマ、ノビタキが堤防下の植え込みに。他にカンムリカイツブリ、スズガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなど。冬の装いが整いつつある(石光 章)。

**鴻巣市大間一丁目** ◇10月26日午前8時過ぎ、ジョウビタキ♂1羽。今季初認(榎本秀和・みち子)。

**川越市伊佐沼(5339-7401)** ◇10月26日、ヒドリガモとホシハジロの群れ中にアメリカヒドリ♂1羽(榎本秀和)。

## 2017年 埼玉県内 年間鳥見ランキング 参加のご案内

日本野鳥の会埼玉普及部

日本野鳥の会埼玉の鳥見ランキングも今回で16回目を迎えます。昨年1年間の(2017年1月1日~12月31日)の鳥見総決算として、「年間鳥見ランキング」に参加してみましよう。詳細は以下の通りです。

### 1、当会主催探鳥会での観察鳥種数ランキング

- ・日本野鳥の会埼玉が主催した探鳥会(県内外を問わず、宿泊探鳥会を含む)に限ります。
- ・探鳥会に参加して自分自身が観察した種類をカウントしてください。ただし、複数の探鳥会で観察した同一種の鳥は1種とします。
- ・鳥種名、観察月日、探鳥会名の3項目を記載したリストを送ってください。

### 2、ランキングの参加資格と方法

- ・日本野鳥の会埼玉会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
- ・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号、会員番号を記載して、下記まで。

E-mail : fukyubu@wbsj-saitama.org

郵送 :

長野誠治宛

締切り : 2018年2月末日

### 3、2018年の鳥見ランキングについて

2018年については、実施の有無も含めて検討中です。詳しくはまた後日お知らせします。

### 表紙の写真

**スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属シジュウカラ** 日差しが暖かく、シジュウカラが花の色に染まる季節は、もうすぐです。

麦野正忠(さいたま市)



## 行事案内



モズ(プリングマン・ウィリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費：**中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

**持ち物：**筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻：**特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

### 戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月1日(木) 平日

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:41 発下笹目行きで、「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、今村、藤田  
見どころ：降り注ぐ光に、春が感じられる季節。カンムリカイツブリは夏羽へ変身中、ベニマシコも草叢から姿を現すでしょう。

### 狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月3日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線 狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:50 発西武バスで終点下車。

担当：石光、小林(ま)、鈴木(秀)、藤掛、星、水谷、山本

見どころ：よく整備された公園を歩いて、林の鳥や池の鳥を探します。意外な鳥との出会いに期待しましょう。

### 嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月3日(土)

集合：午前8時35分、東武東上線 武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶

の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線 川越 7:58 発、または寄居 8:02 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林にシロハラ、イカル、トラツグミ。川辺にクサシギ、イカルチドリ、セキレイ 4 種。猛禽も飛ぶでしょう。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：須崎、石塚(敬)、石塚(真)、伊藤、大井、高崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：「ハクチョウ飛来」の一報が届きました。オオハクチョウ・コハクチョウに出会えるでしょうか？ 調節池を回ります。

お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

ご注意：①コースの途中にトイレはありません。②強風等天候によってはコースを変更。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場(学習センター建物改修中のため)。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、大畑、岡安、近藤、柴田、立岩、千葉、飛田、内藤、永野、村上、吉原(早)

見どころ：寒いけれど、鳥見に最高の季節です。冬の小鳥たちも来園者に慣れてきたころで、思わぬ近場から観察させてくれます。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月4日(日)

集合：午前9時20分、森林公園南入口前広場。  
交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス 9:00 発で「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り少し戻る。

費用：参加費と入園料大人410円(子供80円)、65歳以上210円(要年齢確認できるもの)。  
担当：鈴木(秀)、大畑、岡安、佐久間、中村(豊)、藤掛、藤澤、松下

見どころ：南口から中央橋を越えて山田大沼までのコース。今年もオシドリはいるでしょうか。アオバトは？ アオゲラは？

### 加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：2月8日(木) 平日

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。  
交通：東武伊勢崎線 春日部8:16→久喜8:29→花崎8:36。JR宇都宮線大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所  
担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植平、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ：青毛堀川～公園内を歩き、シメヤツグミなど身近な小鳥たちを探します。オオタカやチョウゲンボウも出るかな！

### さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月10日(土)

集合：午前9時、JR宇都宮線 土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。

担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、柏瀬、小林(み)、田中、藤原、山田

見どころ：見沼たんぼの探鳥会では一番北側

の探鳥地。駅から徒歩で現地まで行けます。ビギナーコースを設けます。お試し入会の方も是非お越しください。可愛い小鳥も待っています。(太字は「始めてみようバードウォッチング」で一緒だった仲間です)。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月11日(日・祝)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。  
交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：今季も野鳥の森のヤブランは豊作。なのに2年続けて期待を裏切ったレンジャク。「3年目の正直」は成るでしょうか。

### 所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月11日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線 西武球場前駅前。

担当：石光、小林(ま)、島崎、鈴木(秀)、長谷部、水谷、持丸

見どころ：狭山湖のトップ・シーズン。水鳥は勿論、ツグミ類、カラ類、ヒタキ類等を見て冬の鳥見の醍醐味を満喫しましょう。

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月17日(土)

集合：午前7時40分、丸山公園南口付近。  
交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場から **尾32** 西上尾第二団地經由リハビリセンター行 7:22 発で「丸山公園入口」下車、徒歩約4分。

担当：近藤、秋葉、浅見(健)、浅見(徹)、大坂、立岩、千葉、永野、吉原(早)

見どころ：早朝の静かな公園とその周辺で冬鳥探し。去年は、アトリ、アカハラ、トラツグミなど36種。11月にはアリスイも出ました。今度はどんな鳥にあえるかな？

帰りのバス：下車したバス停から 12:43 発。

### 埼玉 Young 探鳥会 さいたま市・大宮公園



期日：2月17日(土)

集合：東武野田線 大宮公園駅前。

解散：昼食後13時半ころ、大宮公園内。

担当：廣田、石塚(敬)、石塚(真)、石塚(奏)、河邊、島崎、高崎

みどころ：ヤン探初の開催地となる大宮公園で、カモ類と冬の小鳥たちを探します。鳥たちと距離が近くじっくり見られるのがオススメです。公園内の梅も咲き始める季節かもしれません。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月18日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR北浦和東口に8:15までに下車し、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから8:23発東武バス「さいたま市立病院行」で、終点下車。

ご注意：今回から北浦和駅での案内人の出迎えはありません。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：芝川で水辺の鳥、畑や草地でホオジロ類、斜面林でカラの混群を探します。

### 志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月18日(日)

集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：鈴木(秀)、佐久間、志村、神場、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：柳瀬川の土手と水谷田圃を見ながら村山快哉堂まで歩きます。カモ類が減る中、アメリカヒドリは現れるでしょうか。中洲のイカルチドリやイソシギは健在？風が吹けば猛禽に期待。

### さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月24日(土)

集合：午前9時10分、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線岩槻駅東口から朝日バス8:43発しらこぼと水上公園行で「村国入口」下車。バス停からご案内します。

担当：長野、石川、内田、榎本(建)、鈴木(誠)、鈴木(紀)、鈴木(庸)、長嶋、野村、藤原

見どころ：冬鳥は北への旅立ちの備えを始めています。その様子を観察してみませんか。トイレが完備された公園内や平坦な元荒川沿いの道をゆっくり歩いて、野鳥を探しましょう。初心者大歓迎です。

ご注意：今回から岩槻駅での案内人の出迎えはありません。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月25日(日)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線 本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島

見どころ：水鳥、猛禽、冬の小鳥。真冬の利根河原には楽しみがいっぱいです。さて、どんな出会いがあるでしょうか。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます、足拵えはしっかりと。

### 群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月25日(日)

集合：午前9時30分、JR信越線 横川駅前。

交通：JR高崎線 大宮7:07発→高崎8:31着、JR信越線 高崎8:42発→横川9:15着。

解散：午後3時30分ころ、横川駅前。

担当：入山、浅見(徹)、野口(修)、藤澤、星

見どころ：横川駅から小根山森林公園まで歩きます。さて、今年もとんがり頭のミヤマホオジロ君が現れるでしょうか？

ご注意：昼食持参(森林公園まで釜飯の出前ができます。注文は集合時に伺います)。健脚向き(探鳥コースは、往復で約7kmで、一部急な坂があります)。積雪の可能性あります。杖があれば心丈夫です。



## 行事報告

5月27～28日(土～日) 長野県 戸隠高原

参加：20名 天気：晴

キジ オシドリ カルガモ カイツブリ キジバト アオバト アオサギ ホトトギス ツツドリ カッコウ アマツバメ ハチクマ トビ ノスリ コゲラ オオアカゲラ アカゲラ アオゲラ サンショウクイ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイムシクイ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ クロツグミ アカハラ コルリ サメビタキ コサメビタキ キビタキ オオルリ ニュウナイスズメ スズメ キセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ ノジコ アオジ (51種) 歩き始めたときに猛禽の出現! ハチクマであった。みどりが池では、ここで初めてのオシドリ♀と幸先の良いスタート。鏡池まで歩くが、キビタキとサンショウクイが頻繁に現れる。今年も園内でオオアカゲラが営巣してくれた。ここでは、コサメビタキ、ゴジュウカラ達も遊歩道のそばで営巣しており、人間は怖くないのだろうか? 朝探鳥では青い鳥を探す。早速コルリが現れ、続けてオオルリも。2時間があっという間に過ぎた。朝食後はノジコ。すごく近い低い所で囀ってくれた。キャンプ場では、カッコウとアカゲラのパフォーマンス。(菱沼一充)

5月28日(日) 狭山市 入間川

参加：35名 天気：晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ ササゴイ アオサギ ヒメアマツバメ イカルチドリ コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ アオゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ オオヨシキリ ムクドリ キビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ (31種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 今年もコチドリの雛を見ることができた。巣の中でゆっくり育つ晩成性の雛と違い、卵から

かえるとすぐに歩き始める早成性の雛のかわいらしさは最強。年齢に関係なく、釘付け。そして、夏の目玉のササゴイは少ないものの、みんなで観察できた。終点の稲荷山公園ではキビタキと久しぶりにイカルのさえずりで終了。(長谷部謙二)

6月3日(土) 坂戸市 高麗川

参加：37名 天気：晴

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ホトトギス イカルチドリ コチドリ カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 最終地点までの川沿いの遊歩道工事が終わり、多和田橋から最終の鳥合わせ地点まで概ね歩きやすいコースとなった。3か所で子連れのカイツブリが見られた。またホトトギスも鳴き声だけでなく姿を見られた。コチドリ、イカルチドリなども見られ、6月の高麗川としてはまあまあの結果だった。(山口芳邦)

6月4日(日) 北本市 石戸宿

参加：48名 天気：晴

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト アオサギ バン ホトトギス カッコウ カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ ムクドリ キビタキ スズメ セグロセキレイ ホオジロ (24種) (番外：ガビチョウ) カラスが異常に多いのは、桑の実が沢山実っているため。オオヨシキリとホオジロは囀っている姿をジックリ確認。湿度の低い爽やかな風が頬を撫でる木陰で休憩。コジュケイが大きな声でチョットコイ。ピョーピョーはコジュケイの警戒声。カラスの声が騒がしいが、聞き耳を立てるとホトトギスの声が聞こえた。北里の森ではキビタキの声。最後は高尾の池で営巣しているカイツブリの親、雛、卵をじっくり観察。雛が可愛かった。親も愛らしかった。(吉原俊雄)

6月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：41名 天気：晴

キジ カルガモ キンクロハジロ カイツブリ

キジバト カワウ アオサギ オオバン アマツバメ コアジサシ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (27種) (番外:ドバト) カラッとした風で心地よかった。繁殖期のだ真ん中で、アオサギ・カワウ・オオバン・ハシブトガラス・ツバメが抱卵&子育て中であった。また、この時季には珍しくアマツバメ1羽を観察。しかし、今年もカッコウは確認できず。もう見沼田圃では観察できないのか……。 (須崎 聡)

6月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:35名 天気:晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ ホトトギス オオタカ サシバ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ (21種) (番外:ガビチョウ) 押切河原は草が茂って歩行困難なので、野鳥の森コースを採る。鳥は少なく、ガビチョウばかりがうるさい。遠くでキジ、コジュケイが鳴き、ホトトギスも聞こえる。途中、上空にサシバが現れ、オオタカも加わって旋回してくれたので、探鳥会らしくなった。 (新井 巖)

6月15日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加:40名 天気:晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ カッコウ トビ オオタカ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ツバメ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (26種) (番外:ドバト) 昨年から湖面近くで営巣するアオサギ。巣には幼鳥数羽、周囲には巣立った若鳥や親。そしてダイサギ、ゴイサギも。反面コアジサシやコチドリは見られない。上空にはトビ、チョウゲンボウが舞い、オオタカが捕まえた小鳥を自慢げに見せながら飛んで行った。 (相原修一)

6月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:10名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海

老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、三ツ矢正安

6月18日(日) さいたま市 三室地区

参加:61名 天気:曇

キジ カルガモ キジバト カワウ ダイサギ コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ コムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外:ドバト) 曇りで涼風が吹き快適な探鳥会に。下見で狙いをつけたコチドリがぼちり出て、内心ニンマリ。想定外のコムクドリまで現れて、大満足の探鳥会だった。 (浅見 徹)

7月2日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加:67名 天気:晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ヨシゴイ アオサギ ホトトギス カッコウ コアジサシ トビ サシバ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス オオセッカ オオヨシキリ コヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (33種) (番外:ドバト) 最短コースで第一調節池を目指すと、まずは谷中湖でコアジサシが10数羽。カッコウの声も聞こえてきた。観察ポイントでは、オオセッカやコヨシキリに加え、ヨシゴイがよく観られた。帰りにはホトトギスも間近で。ササゴイは重役出勤?で、終了後に姿を見せた。 (佐野和宏)

7月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加:23名 天気:晴

コジュケイ キジ キジバト コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ニュウナイスズメ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (17種) (番外:ガビチョウ) 高温注意報が出ていたので、探鳥時間を短くして日陰に入りながら観察した。途中でセグロセキレイの親子連れらしいのをじっくりと観察した。暑さの中で鳥たちも少なく、元気なのはスズメくらいだった。 (茂木幸蔵)



● 訃報

元幹事の玉井正晴さんが昨年末12月23日(土)に逝去されました。享年74。

1992年(平成4年)入会、1997年(平成9年)幹事に就任、20年間ご活躍いただき、2017年(平成29年)に幹事を退任されたばかりでした。長年のお力添えに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

● 会員の普及活動

2017年11月25日(土)、越生町越辺川で開催された新ハイキングクラブ(東京都)主催「野鳥を観る・知る」第24回を、小林みどり、浅見徹、藤田敏恵、星進が指導しました。

12月6日(水)、蓮田市黒浜沼周辺で開催された彩の国シニア自然大学校「野鳥観察講座」今年度第3回で、食事会を兼ねた室内講座も含めて、小林みどり、榎本秀和、近藤龍哉、田中幸男が指導しました。

12月15日(金)、上尾市丸山公園で開催された上尾自然学習館学習指導員研修で、野外実習と室内研修を小林みどりが指導しました。

● カラスの大量死

1月6日(土)付け読売新聞朝刊などによれば、所沢市と入間市で計90羽のカラスの死骸が見つかったとのこと。鳥インフルエンザ簡易検査は陰性で、県は詳しい死因を調べています。2014年12月～15年1月に入間市など4市で100羽以上のカラスが大量死した時の原因は、細菌性腸炎による衰弱死と推定されています

野鳥の死骸が多数見つかった場合は、素手

で触らず、地域を管轄する県環境管理事務所(「埼玉県環境管理事務所」で検索)にご連絡ください。

● 会員数は

1月5日現在1,657人です。

活動と予定

● 12月の活動

12月9日(土) 1月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

12月17日(日) 役員会(司会:青木正俊、各部の報告・さいたま市教育委員会生涯学習総合センターから講師派遣依頼・探鳥会予定の一部変更・その他)

12月18日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』1月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 2月の予定

2月3日(土) 編集部会。普及部会。

2月10日(土) 3月号校正(午後4時から)。

2月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

2月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

12月下旬に神奈川県の実鶴岬に行った。磯場ではクロサギを10メートルほどの距離で観察したり、ウミウを見て、カワウとの違いを確認したりした。また、磯場の背後にある原生林の中の遊歩道を散策した。磯場では、鳥を楽しみ、原生林では巨木の息吹に触れ、変化にとんだ一日だった。(藤原)

しらこぼと 2018年2月号(第407号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社